

## ここが心地よいよ!日本—日本の礼儀文化—

ギ・ワンリン

10月から日本に来て、一番印象残ったのは清掃員からの挨拶でした。台湾にはあまり知らない人に挨拶してもらう機会がなかったので、声をかけられた時、本当に嬉しかったです。特にあの日、9時に授業がある日で、私が朝1.6キロ遠くの郵便局に先週大雨で忘れた傘を取りにきました。寮に戻った時、全身の筋肉痛がひどくて、とても疲れました。その時、ゴミを分別していた清掃員に会って、予想外の「おはようございます」という挨拶をもらいました。同時に、疲れた気持ちが一気に消えました。

岡田洋輔の「一言で世界が変わる!挨拶の不思議な力」という本に挨拶される人は自分の存在が尊重されることを感じ、自信をつけることができると書かれています。

昔からの日本には既に挨拶の文化が存在しています。挨拶する相手によって、方法もそれぞれです。親しい人に体を15度の角度に傾けていいですが、重要な客に対して、体を45度までの角度に傾けなくてはなりません。

それに、食事をする前に手を合わせて、「いただきます」と言って、その意味は私達に食べられる動物への感謝です。

そのあと、食事の終わりに「ご馳走さまでした」という言葉は、神様に食べ物を準備してくれるという感謝の気持ちを表すのが日本の挨拶の文化の一つです。

日常生活に、同僚や隣人に「おはようございます」と言うのも、他人に対する尊重の気持ちを込めとする行動です。

挨拶するのは世界のどこでもありますが、日本の挨拶だけ他の国と少し違います。日本の挨拶は相手の気持ちを考え、礼儀正しく挨拶をする文化ですが、他の国ではあまりに注意しないので、日本に来たばかりの頃は慣れていませんでした。しかし、慣れてくると、挨拶された時、相手に挨拶できるようになりました。こうすると、両方ともこの行動で自信をもらえます。

日本の挨拶の文化は挨拶する人と挨拶される人が両方ともメリットをもらえます。相手に挨拶する時、相手の存在を認め、相手のことを理解したい意識が表れます。相手はそれに対して、行動すれば、二人の心が通じ合える上で、心地よい雰囲気を作られます。

私のスピーチはこれで終わります。ご清聴ありがとうございました。